

HiKOKI

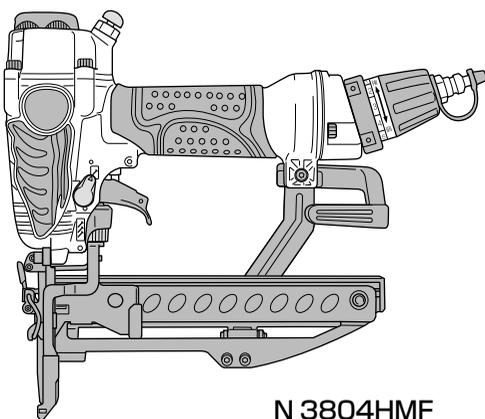
取扱説明書

用途

- フローリングの施工
【N 3804HMF、N 3804MFのみ】
- 石こうボード打ち

高圧フロア用タッカ フロア用タッカ タッカ N 3804HMF N 3804MF N 3804MF(S)

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



高圧タッカ / タッカの 安全上のご注意	1
各部の名称	8
標準付属品	9
仕様	9
別売部品	10

はじめに

ご使用前の点検・準備	11
ステープルの装てん方法	14
ステープルの打ち方（単発 / 連続）	15
ステープルを打つ	18
打ち込み深さの調整方法	19
調圧器について【N 3804HMFのみ】	20
平打ち用ノーズキャップの使い方	21
ステープルの取扱い方	21
エアダスタバルブの使い方	22
排気方向の変え方	22

使い方

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

保守・点検	23
エアコンプレッサと作業の速さ	25
使用潤滑油	26
ご修理のときは	裏表紙

その他

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」、「⚠注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

高圧タッカ / タッカの安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
- ステープルを連結している接着剤やテープの破片、打ち損じのステープルが目にあたると、けがの原因になります。

①



② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

②



警告

③ 高圧タッカ【N 3804HMF】には、高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。

- 高圧タッカは、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
- 高圧タッカおよびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造をしないでください。

これら以外のものを使用すると事故の原因になります。

④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。

⑥ きちんとした服装で作業してください。

⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- ねじ類がゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常があるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

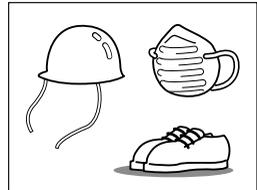
⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。
誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

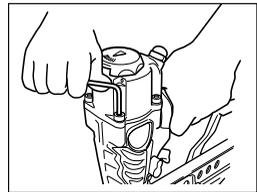
⑨ ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
異常があるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑤



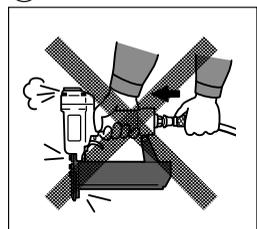
⑦



⑧



⑨



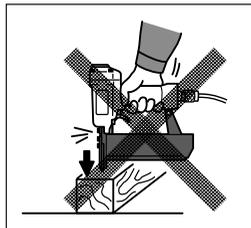
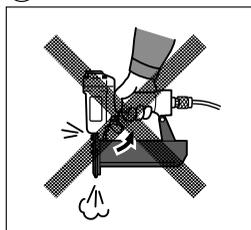
警告

⑩ 使用前に安全装置の確認をしてください。

この機体は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、ステープルフィーダーを後方に引いて次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
- 異常があるまま使用すると、けがの原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑩



⑪ 用途にあった作業に使用してください。

本機は、木材または類似の材料へのステープル打ち作業を目的とした工具です。

指定された用途以外には使用しないでください。

⑫ 指定のステープルを使用してください。

指定されたステープル以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑬ 子供を近づけないでください。

- 作業員以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- けがの原因になります。
- 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。

⑭ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑮ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

⚠注意

作業中

- ① 指定の空気圧力で使用してください。
 - 高圧タッカ【N 3804HMF】の使用空気圧力範囲は 1.76 ~ 2.26 MPa {18 ~ 23 kgf/cm²} です。
この範囲内で使用してください。
2.26 MPa {23 kgf/cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
 - タッカ【N 3804MF、N 3804MF(S)】の使用空気圧力範囲は 0.49 ~ 0.78 MPa {5 ~ 8 kgf/cm²} です。
この範囲内で使用してください。
0.78 MPa {8 kgf/cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。
人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
誤ってステープルが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ④ ステープルを打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。
ステープルが突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。
- ⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、タッカやエアコンプレッサを使用しないでください。
ステープルを打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

①

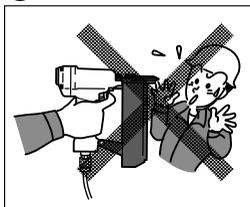
1.76~2.26MPa
{18~23kgf/cm²}



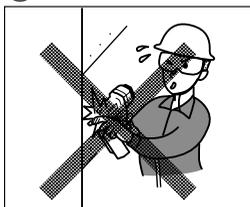
0.49~0.78MPa
{5~8kgf/cm²}



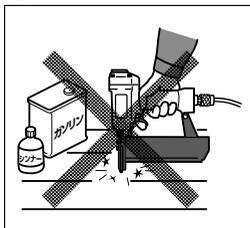
②



③



⑤

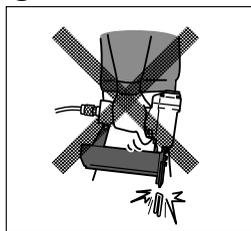


警告

⑥ ステープルを打ち込むとき以外は、引金に指を掛けないでください。

- 引金に指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- ステープルを装てんするときや調整などをするときは、引金に指を掛けないでください。
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



⑦ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- 人体に吹き出し口を向けない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑦



⑧ 高圧タッカ【N 3804HMF】の調圧器で打ち込み調整をするときは、引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

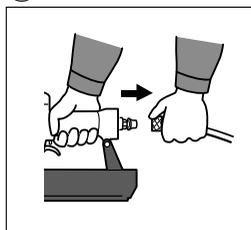
⑨ ノーズキャップの着脱をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩ フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

フックでつり下げるときは、必ず引き金から指をはなし、エアホースをはずしてください。
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩



⑪ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、ステープルぶまりの直しなどの場合。
- ステープルを装てんする場合。
- タッカを移動する際や手渡しする場合。

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑫ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

警告

⑬ **ステーブルを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。**
一度打ったステーブルの上に、再度ステーブルを打つことはしないでください。
ステーブルがはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑭ **作業中はまわりの人に注意してください。**

- ステーブルを連結している接着剤の破片や、打ち損じたステーブルが当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことを良く確かめてください。
機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。

⑮ **薄い板や木材の端にステーブルを打たないでください。**

薄い板に打つとステーブルが突き抜けたり、木材の端に打つとステーブルがそれたりして、けがの原因になります。

⑯ **機体の反発に注意してください。**

硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑰ **壁の両側から同時にステーブル打ち作業をしないでください。**

打ったステーブルが突き抜けたり、壁ぎわのステーブルがそれたりして、けがの原因になります。

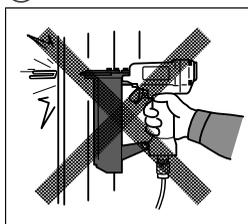
⑱ **無理な姿勢で作業をしないでください。**

- 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、ステーブル打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
けがの原因になります。

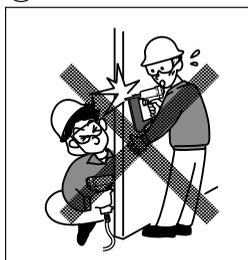
⑲ **屋外での作業は、次のことに注意してください。**

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面でステーブルを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面でステーブルを打つときは、前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面にステーブルを打つときは、上から下へ作業してください。

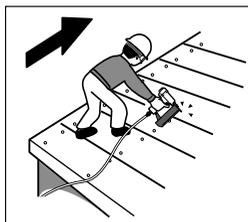
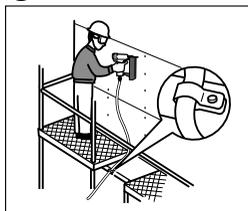
⑮



⑰



⑲



警告

- ⑳ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- タッカを使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ㉑ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。
- ㉒ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。
- 内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。
- ㉓ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- そのまま使用すると、けがの原因になります。
- ㉔ 機体の反発に注意してください。
- 硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

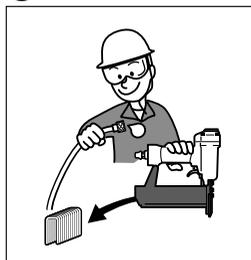
㉓



作業後

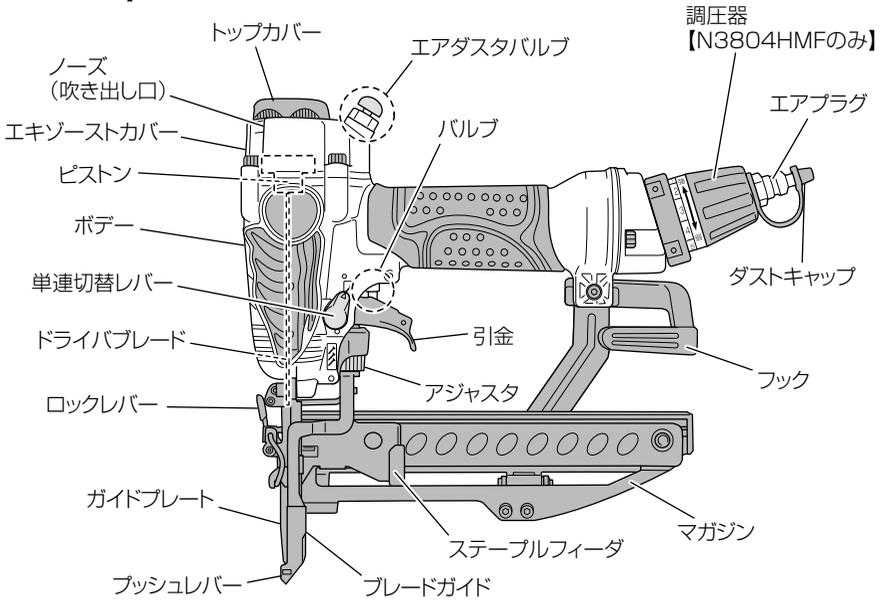
- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、ステーブルを全部抜き取ってください。
- ステーブルを残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。
- ② タッカやエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。
- ③ タッカは、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率良く作業していただくため、タッカは常に手入れをし、清潔に保ってください。
 - 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。
- 安全性が損なわれ、けがの原因になります。
- ⑥ タッカの修理は、専門店で依頼してください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

①

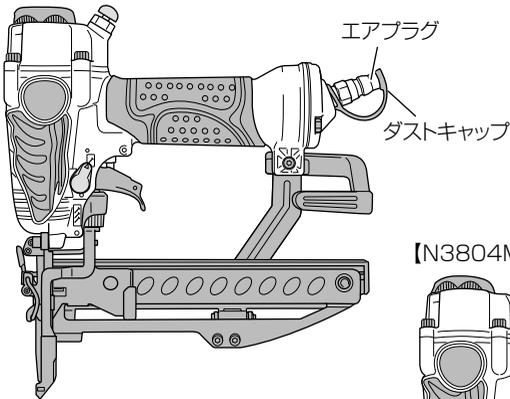


各部の名称

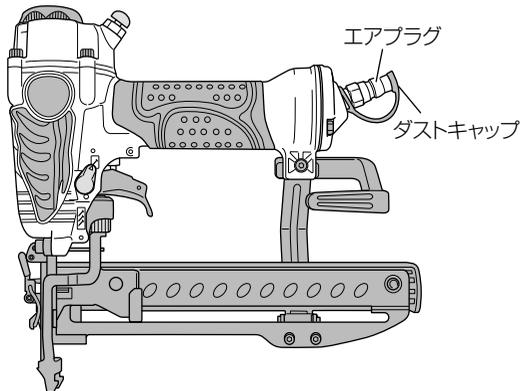
【N3804HMF】



【N3804MF】



【N3804MF(S)】



標準付属品

保護メガネ (1 個)		油さし (1 個)	
平打ち用ノーズキャップ (A)(1 個) 【N 3804HMF、N 3804MFのみ】		平打ち用ノーズキャップ (B)(1 個) 【N 3804MF(S)のみ】	
ケース (1 個)			

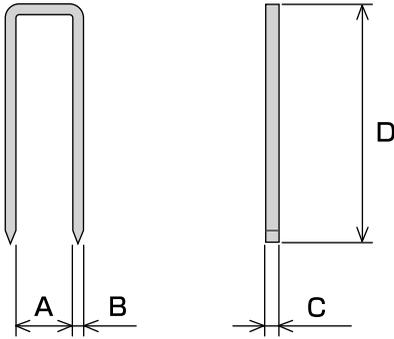
仕様

機 種 名 形 名	高圧フロア用タッカ	フロア用タッカ	タッカ
	N 3804HMF	N 3804MF	N 3804MF(S)
動 力 形 式	ピストン往復動式		
使用空気圧力	1.76 ~ 2.26 MPa {18 ~ 23 kgf/cm ² }	0.49 ~ 0.78 MPa {5 ~ 8 kgf/cm ² }	
ステーブルの送り方式	うず巻きばね式		
ステーブルの装てん数	115本 (1連+40本)		
製品の大きさ (長さ×高さ×幅)	296×241×66 mm	249×241×66 mm	263×232×66 mm
質 量	1.2 kg	1.1 kg	1.2 kg
使用エアコンプレッサ	高圧エアコンプレッサ EC1445H3, EC1245H3, EC1445H2, EC1245H2		
使用エアホース	高圧エアホース 内径 5 mm 以上 長さ 30 m 以内	一般圧エアホース 内径 6 mm 以上 長さ 30 m 以内	

別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください)

本機は、下の表に示すステープルが使用できます。
ステープルは75本が1連に接着されています。寸法はおおよその値を示しております。

(寸法単位：mm)



ステープル	A	B	C	D
B0416F	3.85	0.95	1.25	16
B0419F				19
B0425F				25
B0432F				32
B0438F				38

注 上記表以外のステープルは使用しないでください。ステープルづまりや座屈が多発し、機体を損傷する原因になります。

ご使用前の点検・準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●エアコンプレッサ、エアホースの準備

⚠警告

- 高圧タッカは、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
- 高圧タッカおよびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットは専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。

高圧タッカ【N 3804HMF】に使用できる高圧エアホース内径は 5 mm 以上です。タッカ【N 3804MF、N 3804MF(S)】に使用できるエアホース内径は 6 mm 以上、ホース長さは 30 m 以内です。

高圧エアホース / エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 高圧エアホース / エアホースの長さは、30 m 以内のものを使用してください。
エアホースが長いと圧力が低下して、十分な打ち込み力が得られません。

●エアコンプレッサのドレン除去

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。

使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。

乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。(詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。)

●ステープルの準備と安全点検

用途に合ったステープルを準備してください。(P.10「別売部品」参照)
P.23「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行って下さい。

⚠警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

●空気圧力の確認

空気圧力は、ステープルの打ち込み能力(ステープルの長さ、木材の堅さなど)に合わせて、機体の使用空気圧力の範囲内で使用してください。

高圧タッカ【N 3804HMF】は 1.76～2.26MPa{18～23kgf/cm²}、タッカ【N 3804MF、N 3804MF(S)】は 0.49～0.78MPa{5～8kgf/cm²}の範囲で調整してください。機体の性能、寿命、安全に影響を及ぼしますので、空気圧力は使用範囲内で使用してください。

●給油について

- 必ず1日に2回以上、作業の前後に10～15滴の油をエアプラグから入れてください。作業前の油は潤滑油になり、作業後の油はさび止めになります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、市販で使用できる油はP.26「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください

注 ●高圧タッカ【N 3804HMF】に付属の油さしは、ノズルに穴があいています。先端を切らずに使用してください。

- 中栓がしてあるので、中栓を取りはずしてから使用してください。使用しないときは中栓を取付けて保管してください。
- 作業前の場合、給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口と射出口より噴霧状に飛び散るので、油がかかっても支障のない所で2～3本ステープルを打ってから作業してください。
- 作業後の場合、注油後1本だけステープルを打つと油が内部に行き渡ります。

●エアホースの接続

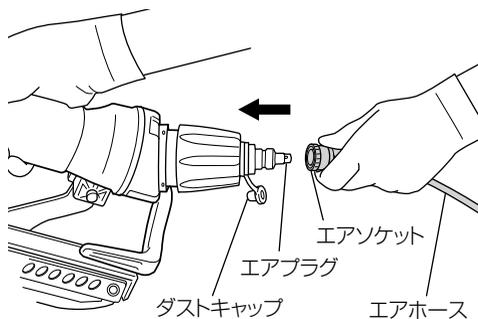
⚠警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

- ① エアプラグからダストキャップをはずします。
- ② ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- ③ エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

注 高圧タッカ【N 3804HMF】の場合、エアホースを接続した直後、調圧器から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。

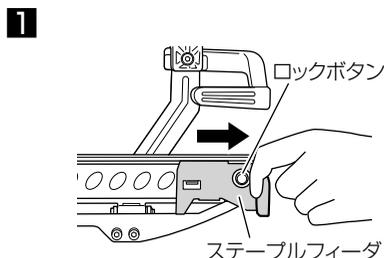


ステーブルの装てん方法

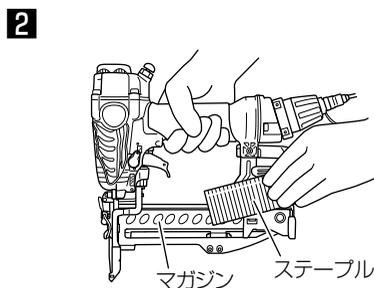
⚠ 警告

ステーブルを装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

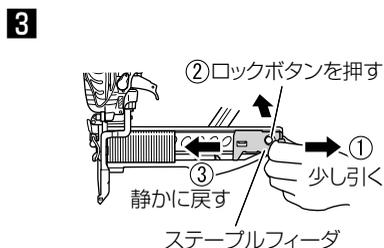
- 1 ステーブルフィーダを後方に引いて、ロックボタンがステーブルフィーダのロックボタン用穴に確実に入ったことを確認します。



- 2 ステーブルをマガジンの上方から1連ずつ入れ、手で前方へ送ります。



- 3 ステーブルフィーダを少し後方へ引き、ロックボタンを指で押し込んでステーブルフィーダを前方へ戻します。
次にステーブルフィーダを装填済みのステーブル後端へ静かに接触させます。



- 注** ステーブルフィーダを急にはなすと、急激に戻り、ステーブルが変形したり、ばらばらになることがあります。ステーブルづまりの原因になります。
ステーブルフィーダは必ず静かに戻してください。

ステーブルの打ち方（単発 / 連続）

ステーブルの打ち方には、先にプッシュレバーを対象物に押し当ててから引金を引く「単発打ち」と、先に引金を引いてからプッシュレバーを押し当てる「連続打ち」の2つの操作方法があります。

単発打ちは、仕上げを重視する作業や狙った所にステーブルを打つ際に使用し、連続打ちは、引金を引いたまま連続的に作業したい場合に使用します。

【N 3804HMF、N 3804MF】はおもに、フローリング（床張り）作業を目的とした製品です。狙い打ちを確実にするため、「単発打ち」での使用をお勧めします。

安全装置について

この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、ステーブルが発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、ステーブルは発射しません。これは、誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、ステーブルが発射されることを防ぐためです。

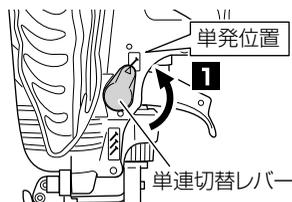
● 単発打ち

⚠ 注意

単発打ちでも、引金は素早く、確実に引いてください。

引金を素早く、確実に引かないと、打ち込み時の反動で連続打ちすることがあります。

注 狙った所にステープルを打つ場合は、単発打ちで作業してください。



1 単連切替レバーを、上向きに単発位置にセットします。

2 ステープルを打つところに、プッシュレバーを押し当てます。

[フローリング作業]

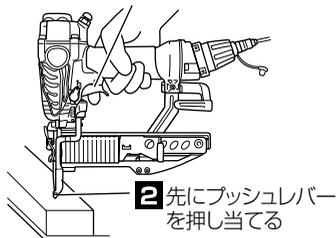
フロア材の浮上がりを防止するため、本体の打ち込み角度は約45°にし、プッシュレバー(フロア打ち用)の先端凸部をフロア材のさねに確実に当てます。

【N 3804HMF、N 3804MFのみ】

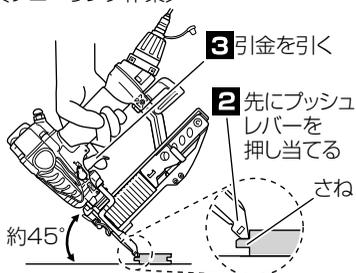
3 機体をしっかり押し付けながら、引金を引き、ステープルを打ち込みます。

4 機体を持ち上げて、引金をはなします。

3 引き金を引く



[フローリング作業]



● 連続打ち

連続打ちは、はじめに引金を引いておき、その後、ステープルを打つ所に射出口を「トン・トン・トン」と押し当てれば、連続的に作業ができます。

標準付属品の平打ち用ノーズキャップを取付けると、平打ちする場合に便利です。(P.21「平打ち用ノーズキャップの使い方」参照)

⚠ 警告

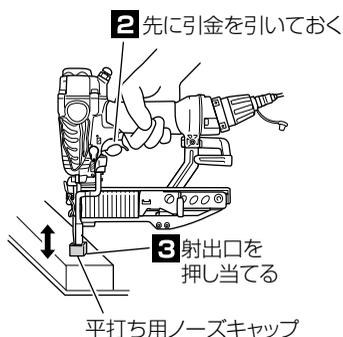
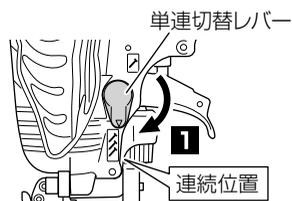
ノーズキャップの着脱をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

1 単連切替レバーを、下向きに連続位置にセットします。

2 先に、引金を引きます。

3 プッシュレバー(射出口)の先端を、対象物に押し当て、ステープルを打ちます。

4 引金を引いたまま機体を持ち上げて、**3**からの手順を繰り返し、連続してステープルを打ちます。



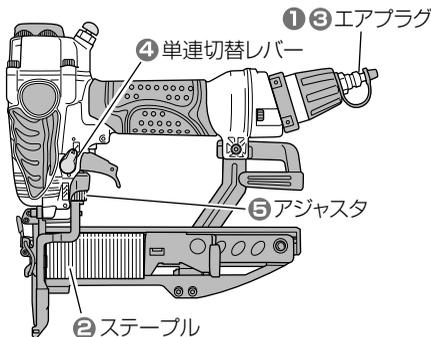
ステープルを打つ

警告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。
- フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。
- 使用しない場合や作業中断時は、エアホースをはずしてください。
- 作業終了後は、エアホースをはずしてから、ステープルを全部抜き取ってください。

1 給油する

10～15滴の油をエアプラグの取付口から入れてください。さび止めのため、作業後も給油してください。(P.12「給油について」参照)



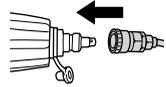
2 ステープルを装てんする

作業の用途に合った形状・寸法のステープルを装てんしてください。(P.14「ステープルの装てん方法」参照)



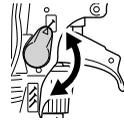
3 エアホースを接続する

エアホースのエアソケットを、エアプラグにさし込みます。(P.13「エアホースの接続」参照)



4 打ち方を選択する

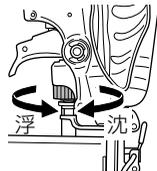
単連切替レバーで、作業に応じて「単発打ち」「連続打ち」を選択します。(P.15「ステープルの打ち方」参照)



注 材料の硬さ・厚さ・組合わせによってはステープルが曲がる場合や材料が割れる場合がありますので、試し打ちして確認の上、使用してください。

5 ステープルを打つ

アジャスタで、ステープルの打ち込み深さを調整します。(P.19「打ち込み深さの調整」参照)



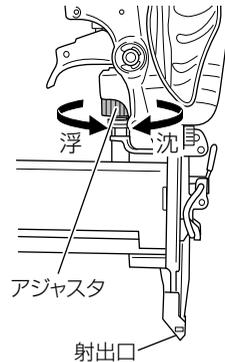
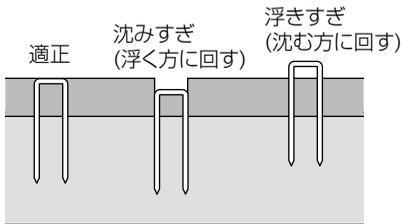
注 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。

打ち込み深さの調整方法

⚠ 警告

アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことを確認のうえ、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

試し打ちし、ステーブルが沈みすぎるときはアジャスタを浮➡の方に回します。
ステーブルの頭が浮くときはアジャスタを沈◀の方に回します。



注 打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できるのでアジャスタの調整と併用してください。
ステーブルの打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。

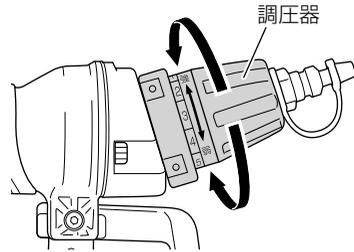
調圧器について【N 3804HMFのみ】

高圧タッカ【N 3804HMF】には、ステープル打ち込み能力（ステープルの長さ、部材の硬さなど）に応じて、出力を無段階に変えられる調圧器が付いています。

注 調圧時、調圧器から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。

警告

調圧器で打ち込み調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。



この調圧器は、高圧エアホース側の圧力 $1.76 \sim 2.26 \text{ MPa}$ { $18 \sim 23 \text{ kgf/cm}^2$ } を一般圧 ($0.49 \sim 0.78 \text{ MPa}$ { $5 \sim 8 \text{ kgf/cm}^2$ } 前後) に減圧しています。

調圧器内にごみなどが入ると、密封性が低下し、この状態でエアホースをつないだまま長い間放置すると、徐々に機体内の圧力が上がってリリーフ弁が作動して調圧器から空気が排出されることがあります。

万一、リリーフ弁が作動して空気が排出された場合は、次の手順にしたがって状態を確認してください。空気の排出が止まれば正常です。

- ① すぐにエアホースをはずします。
- ② エアコンプレッサの圧力が 1.76 MPa { 18 kgf/cm^2 } 以上に復帰するまで待ちます。
- ③ エアホースをつなぎなおします。

(1 回で空気の排出が止まらない場合は、①～③の手順を数回繰り返してください。)

上記①～③を行っても調圧器から空気を排出し続ける場合は、調圧器の故障ですので、ただちに作業を中断してエアホースをはずし、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

平打ち用ノーズキャップの使い方

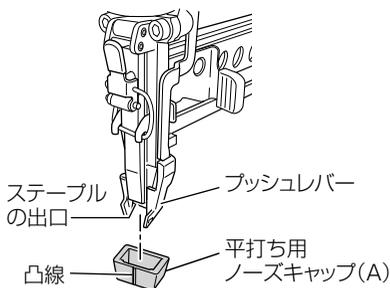
⚠ 警告

ノーズキャップを着脱するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

【N 3804HMF、N 3804MF用】

フロア（床張り）打ち作業以外の平打ち作業をする場合は、プッシュレバーに平打ち用ノーズキャップ(A)を取付けます。

平打ち用ノーズキャップ(A)の取付けは凸線のある側を前方にしてプッシュレバーにさし込みます。

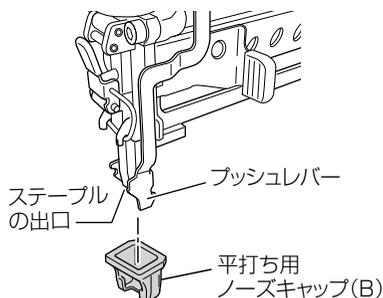


【N 3804HMF(S)用】

打ち込み部材を傷つけない場合は、プッシュレバーに平打ち用ノーズキャップ(B)を取付けます。

右図のような向きで、プッシュレバーにさし込みます。

使用しないときのノーズキャップは、ケースの収納場所にさし込んでください。



ステープルの取扱い方

- 注**
- ステープルは、ていねいに扱ってください。落とすと、連結部が切れることがあり、そのままの状態で使用するとステープル送り不良により、空打ち、ステープルづまりなどが発生することがあります。連結部が切れたステープルは使用しないでください。
 - ステープルは長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があります。ステープル梱包箱などに入れて保管してください。

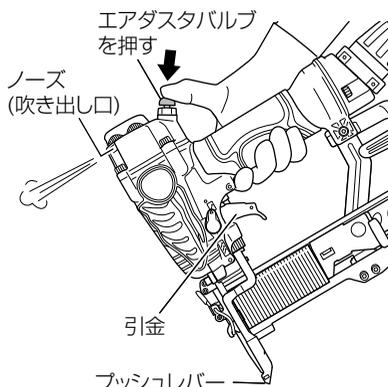
エアダスタバルブの使い方

警告

- エアダスタバルブを使用するときは、必ず引金から指をはなしてください。
- 人体に吹き出し口を向けないでください。
- プッシュレバーを押し当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。

この機体は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。

親指でエアダスタバルブを押して使用してください。



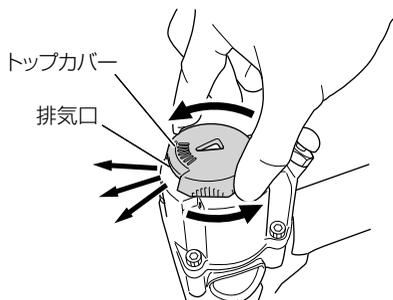
- 注**
- 機体に給油した直後、エアダスタバルブを使用すると油が吹き出し口より噴霧状に飛び散る場合がありますので、油がかかっても支障のない所で2～3秒試し吹きしてから作業してください。
 - エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。

排気方向の変え方

警告

排気方向の調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

排気口の向きは、トップカバーを回すことにより360°の範囲で変えることができます。



保守・点検

⚠ 警告

ステーブルづまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、ステーブルを全部抜き取ってください。

● ステーブルづまりの直し方

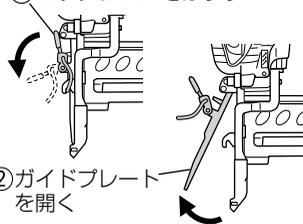
1 ロックレバーをはずし、ガイドプレートを開きます。

2 案内溝につまったステーブル、破片、接着剤、木くずなどをマイナスドライバーなどで取り除きます。

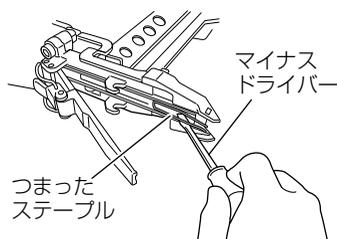
注 ドライバブレードの先端が摩耗すると、ステーブルづまりが発生しやすくなります。
ステーブルづまりが多発する場合には、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

1

① ロックレバーをはずす



2

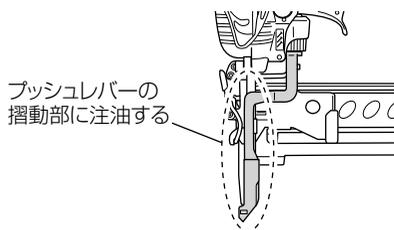


● プッシュレバーの点検

プッシュレバーがスムーズに摺動するか確認してください。

プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油をさしてください。

油を注ぐことにより、動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

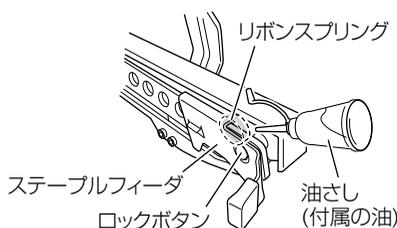


● マガジンの点検

マガジンの中にとまったごみ、木くずなどを取り除いてください。

ステーブルフィーダのスプリング部に、ときどき注油してください。

ステーブルフィーダを後方に引いて、ロックボタンをステーブルフィーダの穴に入れた状態で、後方からスプリング部に注油してください。

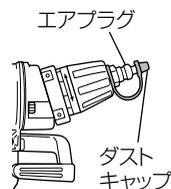


●機体の点検

各部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

●ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。



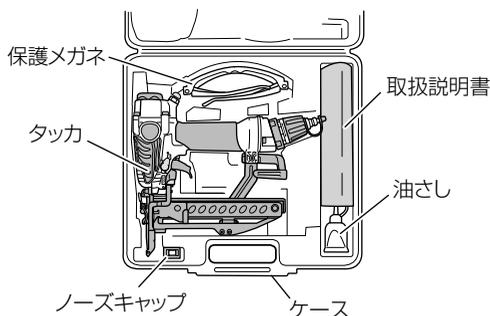
●作業後の保管

⚠警告

作業後は、ステーブルを全部抜き取ってください。

注 エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。また取りはずしたノーズキャップはケースのノーズキャップ収納位置に収納してください。機体と付属品は下図のようにケースに入れてください。
- 長期間使用しない場合：
 - さび防止のため、エアプラグから給油し、2、3本ステーブルを打って油を内部に行き渡らせてください。
 - 鉄の部分やバルブの部分には、油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油をP.26ページに示しますので、これらの油を使用してください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので、暖かい場所に保管してください。
- お子様の手が届かない乾燥した場所に保管してください。



エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力（MPa）の関係を示す下表を目安に選定してください。

なお、木材の硬さ等によっても速さが異なりますので、一応の目安とご理解ください。

〈高圧タッカ [N 3804HMF]〉

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 高圧釘打機用 エアコンプレッサ	1.76 ~ 2.26 MPa {18 ~ 23 kgf/cm ² }
EC 1445H3	200 ~ 150 本

連続して釘打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をおすすめします。

〈タッカ [N 3804MF、N 3804MF(S)]〉

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 高圧釘打機用 エアコンプレッサ	0.49 ~ 0.59 MPa {5 ~ 6 kgf/cm ² }	0.59 ~ 0.69 MPa {6 ~ 7 kgf/cm ² }	0.69 ~ 0.78 MPa {7 ~ 8 kgf/cm ² }
EC 1445H3	230 ~ 200 本	200 ~ 150 本	150 ~ 90 本

使用潤滑油

使用潤滑油は、釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル		———〔別途販売しております〕
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄 ISO VG32～68(#90～#180)

注 潤滑油は必ず上表の油を使用してください。
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>